

会議記録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和5年度第2回高松市環境審議会
開催日時	令和5年12月20日(水)
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議題	(1) 審議事項 ア 次期高松市環境基本計画案について (2) 報告事項 ア 高松市環境基本計画の令和4年度取組状況について イ 地域脱炭素化に向けた先進的な取組について(経済環境常任委員会所管事務調査)
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席委員	12人
	角道 弘文、生嶋 暉、石原 由維子、今岡 芳子、入江 裕美、佐藤 宣幸、高瀬 裕章、辻 幸治、筒井 由果、堀 加賀、森田 桂治、山田 明広
欠席委員	2人
傍聴者	2人 (定員 5人)
担当課及び連絡先	環境総務課 (Tel.839-2388)

審議経過及び審議結果

議題

(1) 審議事項

事務局から内容を報告した後、意見交換が行われた。

ア 次期高松市環境基本計画案について

(委員)

資料2 2ページに、児童生徒の体験活動とあるが、高松市全体として、環境保全活動における体験活動とは、こういったものを具体的に考えているのか。

(事務局)

引き続き推進していきたい取組として、南部クリーンセンターでの清掃工場見学や各種環境学習がある。清掃工場見学では、家庭や学校からでたごみが最終的にどのように処分されるのか、また、リサイクルやリユースされているかを学ぶことができる。夏休みや春休み等の休暇期間中には、

生ごみコンポストや廃材を使った工作等の体験活動を実施している。

また、環境総務課では、環境学習事業として、主催講座や各種団体等に御参画・御協力いただき、講師を派遣する出前講座を実施している。引き続き、それぞれの専門分野や知見を生かしたものを、子どもたちと、机上だけの勉強だけでなく、現地で体験してもらえよう環境学習を実施していきたいと考えている。計画書にも取組内容が分かるよう、掲載方法を工夫していきたい。

(委員)

子どもたちが自分事としてとらえ、海や山等が汚れていると感じて、初めてもっと綺麗にしたい等の気持ちが生まれてくると考える。このごみがどのように始末されるか、処理方法のみではなく、もっときれいにしたいなという気持ちが浮かんでくるような体験活動や環境学習を実施していただきたい。

(事務局)

子どもたちを初め、地球上のすべての人間が自分事として認識し、脱炭素型ライフスタイルを実践していただきたい。そうしたことができるよう計画に掲載していきたいと考えている。

(会長)

基本目標6は分野横断的で最も重要であるが、何か他に御意見あればいただきたい。

(委員)

子どもたちに環境学習をすると、学習後もずっと関心を持ってくれる子もいる。環境学習を10年以上行っていると、当時の子子どもたちが、高校生や大学生になっても、継続的に活動してくれている場合もあり、2050年等に向かって希望だと思える。大きい予算がかからない分野だと思うので、より推進していただきたい。

また、指標の目標値はそんなに高くないような気がするので、もっと大きい目標値を出してもいいのではないか。

(会長)

挑戦的な目標値の設定を検討していただきたい。

(委員)

指標の環境学習講座参加者数の指標だが、少ないのではないか。環境学習は、市民全員で取り組むべきものであり、コミュニティセンターや学校等でも様々な観点から幅広く展開されている。数値の根拠を明確にし、各分野の環境学習参加者数をリストアップできると、どれだけの規模で取り組んでいるか、全体的な数字が見えるのではないか。

(会長)

特に、脱炭素や生物多様性に対する環境学習がどのように濃密に展開されるか、また、若い人ほどより響くと思うので、そのあたりに焦点を当てた指標の設定も是非御検討いただきたい。

(事務局)

環境衛生組合連合会から、ボランティア清掃等の人数を報告していただいている。地域ごとにカウント方法にばらつきがあり、本市が主体となってカウントしていない。参考値として把握しているので、必要に応じて数字の活用は検討していきたい。

コミュニティセンター講座では、様々な分野の学習を実施しており、そのうち環境学習は、必須科目となっている。教育委員会では、参加者数を把握しているが、環境指標ではその数値の全ては入っていない。自分事として受け止め、身近なコミュニティセンターでも環境学習ができるということを普及していければと考えているところである。

(委員)

就学前の子どもたちにも、海ごみ等に関してお話していただきたい。また、海ごみを使って芸術士と連携し、自分たちで拾ったごみを使って、アートに展開する取組も検討していただきたい。

(会長)

現場のニーズとのマッチングを図るのは、行政の腕の見せ所だと思うが、どのように考えるか。

(委員)

芸術士は、企業の産業廃棄物を頂き活動することもあるので、廃材利用とアート分野は、非常に親和性が高い。アーキペラゴは出前講座の登録団体であり、高松市に申請すると講師を派遣できる、という既存の取組があるため、実現可能性がある。その取組を周知、広報していただくというのも大事なのではないか。

(事務局)

既存の取組として、出前講座や環境学習の講師派遣があり、予算化もしている。是非御活用いただきたい。広報については、数年前から、小中学校の教頭会等でも周知している。年度末、年度初め若しくは翌年度のその子供達向けのプログラムを準備する時期に、引き続き営業したいと考えている。

(会長)

計画書に、環境学習の講座一覧を記載するのは難しいと思うが、趣旨はきちんと掲載していただきたい。資料編として、掲載するという手法も検討いただきたい。

(委員)

施策の柱53 美しい景観の保全と創出の指標で、空き家の状況を把握する指標を追加してはどうか。また、目指すべき環境像で「さと」という言葉がでてきているので、「さとの景観」等に関する取組があれば盛り込むのはどうか。

(事務局)

空き家に関する取組の所管課及び個別計画は別にある。環境基本計画と連

携させる場合は、文章に付け加える等の工夫はできるかもしれないが、具体的な取組やデータについては、個別計画にて管理していただくようになると考える。

(事務局)

さとの景観につきましては、「全国の棚田100選」等があげられるが、市内において、農業分野における景観を基準とした指標は、現時点ではない状況である。

(会長)

次期環境基本計画の全体をみると、中身に「さと」がないように感じる。また、今後、内容の整合性も確認していただきたい。

(事務局)

確認し、委員の皆様等から助言や指摘があれば、修正等反映してまいりたい。

(会長)

空き家に関する個別計画の中で景観に関する記載がある場合は、環境基本計画の中で、計画名を記載することも検討していただきたい。

(事務局)

事前に会議資料をお送りしていたところ、目指すべき環境像の表記について、2名の委員から、事前に御意見があった。次期計画では、「「人と、さと・まち」が結びつき」と表記しているが、「「人」と「さと・まち」が結びつき」のほうが分かりやすいという御提言を頂いている。環境像は、キャッチフレーズになりますので、他に御意見あればいただきたい。

(委員)

「ひと」「さと」「まち」を全てひらがなにすると、一体感をだせるが、計画は人のためにあり、「人」の主体性を強調するために、「人と、」という表記にしたのだと見受けられる。「持続可能性」というのは、今すぐ行動しないと10年後、20年後の未来がなく、人の意識が変わらない限り、環境は良くなれないというメッセージ性があると思うが「「人と、さと・まち」が結びつき」という表記は、日本語としてのすわりが悪い。

また、「結びつき」と表記されているが、新たに結びつくものはあるのか。世界的に「分断の世紀」と言われており、人間の目の見える範囲内で完結しようとしがちだが、実際に生きるためには、様々な結びつきがあり、一人ひとりがその結びつきを意識することで、少しずつ変わっていくため、「結びなおし」という表現の選択肢もあるのではないか。

さらに、現行計画の環境像には、「自然」「地球」「田園」という、「青」や「緑」の色がイメージできるが、次期計画の環境像には、色が感じられない。8年間看板になるものなので、子どもが読んでも分かり、かつ、意味がきちんと込められているような環境像にしていきたい。

(委員)

「「人と、さと・まち」が結びつき」という表記だが、助詞の「と」があること及び鍵括弧の中に「、」があるのは日本語としておかしいので、検討していただきたい。

(会長)

今結びついていないということではないので、「結びなおし」や「結び付けなおし」という言葉も検討していただきたい。「「人と、さと・まち」」に鍵括弧を付ける理由も考えていただきたい。

(委員)

目指すべき環境像に「持続可能な都市」とあるが、町側だけをアピールしているように聞こえる。

(事務局)

「都市」は、まちにある都市というだけでなく、高松市の全体を示している。

(会長)

「「さと・まち」と人が結びつき」という表記の仕方もある。助詞の使い方を含め、検討していただきたい。

(委員)

環境指標の目標値について、挑戦的な指標がある。例えば、「食品ロスを出していないと思うと回答した人の割合（アンケート結果）」は、現状値43.2%に対し、目標値を80%としており、大胆なライフスタイル転換がないと難しい指標だと考える。一方で、現状値が目標値と変わらない保守的な指標もあるので、環境指標の目標値の定め方を教えていただきたい。特に、基本目標1地球環境分野の目標値を、どのようにして設定したかを教えていただきたい。

(事務局)

指標の目標値については、各個別計画との関連性等を見ながら設定している。また、進捗状況を見ながら、中間見直し時に目標値を変更することもできる。

(事務局)

基本目標1の目標設定については、日本全体であるいは世界全体で、2050年カーボンニュートラルを、また、国においては、2030年までに2013年比で46%二酸化炭素の排出量を削減するという挑戦的な目標を掲げている。現時点では、目標を達成するために、これを積み上げればゼロカーボンが達成できる、という見通しを立てることが困難な状況の中、8ページの「太陽光発電システムと連携する蓄電システムへの市補助件数」及び「市有施設における再生可能エネルギー発電設備の発電出力」は、高松市が脱炭素に関する取組をフルパワーで進めることができたときに、ここまでなら達成できるのではないかと、全力を尽くしてここまで行きたいという目標値である。

9ページ「ZEH化（新築）導入件数」及び「次世代自動車の普及数」につ

いては、社会全体で目指すべき目標を示した指標であり、近年の推移とこれからの意識の高まり等を推測し、目標値を算出した。

(会長)

社会全体で目指すべき数値を目標設定していると、検証や進行管理が難しいのではないかと。脱炭素の分野において、高松市独自の政策に基づく数値化が難しいということか。

(事務局)

様々な要因によって、数値は変化すると考えるが、全く関与できない数値というわけではない。本市では、ZEH化に対する補助金を交付しており、また、次世代自動車においても、自家用車で電気自動車を導入した際に、自宅で給電できる装置に対しても補助している。これらの数値が増えると、市の取組は一定の効果があつたと考えられるため、指標としている。

(会長)

具体的な市の取組や予定については、資料に記載していただけると、進行管理がしやすいので検討していただきたい。

(事務局)

報告等する場合には、分かりやすい記載に努めたい。また、基本目標1の環境指標は、高松市地球温暖化対策実行計画の個別計画にて管理しており、毎年高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会にて、報告している。

(会長)

補助金があるということの周知徹底や補助金を有効に活用して目標値の達成に向かっていく、という旨を計画書に記載していただきたい。

(2) 報告事項

事務局から報告があつた。

ア 高松市環境基本計画の令和4年度取組状況について

意見なし

イ 地域脱炭素化に向けた先進的な取組について（経済環境常任委員会 所管事務調査）

意見なし

【14：40 閉会】